



園だより 11月

令和7年10月31日

千代田区立麴町幼稚園

園長 木村 恭子

発見！ 見つけた！

園長 木村 恭子

一気に秋が深まり、冬の寒さを感じる日も多くなりました。暑さに慣れていた体には、頬をなでる風がひときわ冷たく感じられます。そんな中でも、10月に予定していた遠足はどの日もお天気に恵まれ、秋の自然にたっぷりと触れることができました。

北の丸公園への遠足では、北門を出てすぐに子どもたちの「秋の発見」が始まりました。「いいにおい！」と辺りを見回す友達に、「キンモクセイだよ。あのオレンジの」と得意げに教えるAさん。登降園の道でおうちの方と話題にしていたのかもしれませんが。口には出さずとも、「あれがそうなんだ」と関心を向けた子もいたことでしょう。

公園では、大妻女子大学の石井雅幸先生（自然博士！）が待っていてくださいました。「秋を探そう」をテーマに、見つけたり捕まえたりした虫や植物すべての名前や特徴を即座に教えてもらえるという、とても贅沢な遠足です。「こっちにもいた！」「これは何？」と夢中になって草をかき分け、多様な虫の発見に大満足の子もたちでした。



園に戻ってからも、発見の芽は続きます。遠足で拾ったどんぐりを、ペーパー芯でつくったコースに転がして遊ぶBさん。コースを長く伸ばし、更に上下に分かれて転がるよう試行錯誤。四苦八苦の末「そうだ！わかった！」と、分岐に開閉できる蓋を貼り、見事上下の道を転がるようになりました。いい考え発見！の嬉しそうな表情が印象的でした。

また、はな組のCさんが「ほら！見つけた」と見せてくれたのは、草の根が伸びた先についた小さなジャガイモ。今は使われていない小学校の畑が出所で、理科の学習で植えた掘り残しから芽が出て地中にジャガイモが育ったようです。思いがけない発見に嬉しそうなCさん。聞きつけた他の子どもたちも加わって雑草の間を夢中で掘り始め、「ここにもあった！」と喜んでいました。

このような日々の中で生まれる大小さまざまな「発見」は、子どもたちの学びや育ちを支える大切な原動力です。課題の中で見つける発見も、偶然の発見も、自ら試行錯誤して生まれる発見も、どれも心を動かし、学びの扉を開いていきます。

先日、小学校5年生の理科実験の授業を見学する機会がありました。課題に意欲的に取り組み、自分の考えをもって試そうとする姿に、幼児期からの「発見を楽しむ経験」が大きな土台となっていくことを改めて感じました。

これからも、正解への近道を教えるのではなく、子どもの視点や気づきを大切に受け止めながら、驚きやひらめきに出会える環境を共につくっていきたいと思います。